

製品名: NF-YA ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14662**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	NFYA
別名	NFYA; Nuclear transcription factor Y subunit alpha; CAAT box DNA-binding protein subunit A; Nuclear transcription factor Y subunit A; NF-YA
遺伝子 ID	4800.0
SwissProt ID	P23511
免疫原	抗血清はヒト NFYA 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 261-310

背景

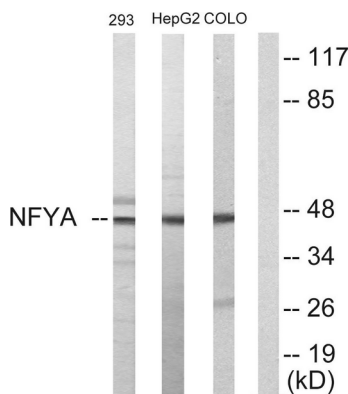
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、三量体複合体の 1 つのサブユニットであり、様々な遺伝子のプロモーター領域にあ

る CCAAT モチーフに結合する高度に保存された転写因子を形成します。サブユニット A は、B サブユニットと C サブユニットからなる強固な二量体と会合し、高い特異性および親和性で DNA に結合する三量体を形成します。複合体の配列特異的な相互作用は A サブユニットによって行われるため、調節サブユニットとしての役割が示唆されています。さらに、この遺伝子産物には、タンパク質分解または翻訳制御による転写後制御の証拠があります。さらなる制御は、グルタミンに富む活性化ドメインにおける選択的スプライシングによって表され、2つのアイソフォームは組織特異的に選択されます。 [RefSeq 提供、2008年7月]機能: プロモーター中の CCAAT モチーフを認識して結合することにより、様々な遺伝子 (例えば、1型コラーゲン、アルブミン、 β アクチン遺伝子) の転写を刺激する。類似性: NFYA/HAP2 サブユニットファミリーに属する。サブユニット: NF-YA、NF-YB、NF-YC の3つの構成要素からなるヘテロ三量体転写因子。NF-YA の会合および DNA 結合には、NF-YB と NF-YC が相互作用して二量体を形成する必要がある。

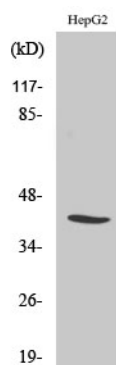
研究分野

抗原の処理と提示;

画像データ



NFYA 抗体を用いた HepG2、293、および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した NF-YA ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。